

檀家のいない お葬式をしないお寺

應典院寺町倶楽部◎大阪府・浄土宗應典院



寺町で異彩を放つ円形の應典院

大阪市天王寺区には、南北1キロ以上にわたり約30の浄土系寺院が伽藍を並べる下寺町がある。この寺町において、本堂が円形でコンクリート打ちっばなしというひとときわ異彩を放つ寺院が存在する。浄土宗大蓮寺の塔頭・應典院である。

應典院は、檀家制度をよりどころにせず「葬式をしないお寺」として社会に開かれており、地域の文

化拠点となっている寺院である。本堂は劇場として使えるよう音響・照明施設を持った円形のホールであり、個性の異なる2つの研修室も備えている。また、本堂前のフリースペースはオープンギャラリーとして美術展や交流会に活用される。来訪者は年間3万人にのぼり、演劇やワークショップなど100以上の催しが行われる。

應典院代表の秋田光彦師は、1955年に大阪市で生まれ、明治大学文学部演劇学科を卒業後は映画製作の道を行っていた。やがて、事業に失敗、生家である寺院に戻るが、日本仏教のシステムに阻まれることが多く、当初は戸惑いばかりだったという。

30代の終わり頃に世界の教育を学ぶため、国際協力団体に関わることになる。アジアの仏教国を巡り、そこでタイの開発僧と呼ばれ、僧侶達が自ら社会開

発、地域開発を行う姿に出会う。日本では見られない僧侶達に出会い、衝撃を受けたという。

帰国した頃、世はバブルで都市寺院が地上げの対象になるなど、寺院の存在意義を問われる時代となっていた。師は檀信徒のみの共益だけでは存続できないと考えるようになっていった。

そして、1995年に阪神・淡路大震災が起き、オウム真理教が社会問題を引き起こす。この2つの出来事が師にとって転機となった。師は震災で被災した人々のために支援活動を行うが、そこで被災者に「あなたには、ひとりの僧侶として何ができるのか？」と問われたという。そこで僧侶とは何か、寺院とは何をする場所なのかを改めて考えさせられた。また、オウム真理教の問題で、戦後の社会において



から、教理とも合致します。真光寺にとって自然保護活動は宗教活動。だから、あえてNPO法人格を取らないのです。そのかわり真光寺が全面的にバックアップする。しかしながら、今後自然学校が発展し寺から出て独立採算にするなら、当然NPO法人格の取得は必要でしょうね。企業と組む際や、助成

金を受ける際にNPO法人であった方が都合が良いでしょうね」

最後に、宗侶が日頃から実践すべきことを尋ねたところ、「私自身の課題でもありますが、仏教について興味を持ち、仏教徒としてどう生きるか常に考えることが肝心なのだと思います」そしてまず坐禅会から始めて欲しい、と師は言う。それともう一つアドバイス。「地元の同級生などの友達を集め、何かお寺でできないかなと、思い切ってみたらどうでしょう？ きっと本音を語ってくれるはずですよ。中には教育関係者や、地域の祭りや文化財保存の関係者、障がい者の支援や、自殺防止の活動などの社会貢献活動に携わっている人もいます。そうした人との出会いの中で、自分が関心のある分野での縁があったら、一歩踏み出すことをお勧めします」がむしやらに実践し、継続していくことが自然と

上総自然学校

住所◎
〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

電話番号◎0438-75-7365

Fax番号◎0438-75-7630

ホームページURL◎
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/index.html>

法人形態◎宗教法人

代表者◎岡本和幸師

設立年月日◎平成17年4月

主な活動内容◎
農業(米づくり)体験、里山散策(自然観察会)、森林整備

スタッフ数◎3名

参加者数◎
10~40人/1回(収穫祭には約80名参加)
年40~50回

公益的な活動につながっていくのではないかと。初めから公益性を云々するのではなく、社会に飛び込み、自ら学び、行動して、縁を広げていって欲しい。師はそう結んだ。

(取材・文 長岡俊成 広報委員会委託委員)